

ブレイクより

K T 生

幼きよろこび

「私は名前がありません

生れてからたつた二日経つただけです」

あなたを何と名つけたらいゝでせうか？

「私は幸福です、

よろこびが私の名前です」

甘いよろこびがあなたに降るやうに！

綺麗なよろこび！

たつた二日しか経つてゐない甘いよろこび、

甘いよろこびとあなたを名けませう、

あなたはほゝゑみます、

その時私は歌をうたひます、

甘いよろこびがあなたに降るやうに！

迷兒になつた幼な子

「父さま、父さま、何處行くの？

おゝ、そんなに急いぢやいけません！」

何か言つて頂戴、父さまの小さい子に

何か言つて頂戴、

でなければ私は迷兒になつて了ひます」

その夜は暗かつた、父さまは居なかつた、

子どもは露に濡れそぼつて居た、

泥濘は深かつた、子どもは泣いた、

而して煙る如な霧が飛んで行つた。

見出されたる幼な子

迷ひの光に誘はれて

淋しい沼地で迷兒になつた幼子は、

しく／＼と泣き始めた、けれども神様

がすぐ近くに

白い衣を着て父さまのやうに現れた。

神様は子供に接吻した、而して手を

ひいて

母さまのところへ連れ歸つた、

母さまは悲しさに頬蒼ざめて淋しい谷

間を

自分の幼な子を泣きながら探し求めて

ゐたのだつた。

子守りの歌

子どもの声が草地に聞える時、

而して笑ひ聲が小山に聞える時、

私の心は私の胸の中にくつろぐ、

而して他のすべてのものも安らかである。

「では歸つておいで、子供達、日は沈んだ、

而して夜の露は置かれた、

さア、さア、遊びを止めて歸らうでは

ないか、

朝が大空に現れて来るまで」

「いや、いや、遊んでゐませう、まだ

晝間ですもの、

而して私達は眠れません、

それに空には小鳥が飛んでゐます、

而してすべての小山は羊で蔽はれて

ゐます」

「それならよろしい、光が消え去つて

了ふまでお遊びなさい、

「さうしたらお家へ歸つてお寝なさい

子供達は跳び上つた、叫んだ、而して

笑つた、

而してすべての山々が舒した、